

(19-Ⅲ) サービス業（余暇関連その他サービス）

18/17 19/18 ◎ 伸び率10%以上 ● 伸び率0～▲10%
: 天気図マーク; ◎ ○ 伸び率0～10% ● 伸び率▲10%以下

1. 企業経営動向

余暇関連サービスは、景気動向や天候、そして消費者ニーズに大きく左右される特徴がある。特に、消費者ニーズは、生活様式の変化に伴う価値観の多様化により変化が激しくなっている。レジャー施設設備においても、顧客のニーズへの対応のため設備投資が行われるが、ニーズの変動が激しいため、その見極めが求められている。

遊園地業は、レジャーや余暇活動が多様化して、小規模な施設は事業から撤退している傾向がある。また、テーマパーク型の商業ビルやＳＣが相次いで開業しているため客足に影響している。入場料を無料化し、乗り物毎に料金を徴収して割高感をなくして、遠方からの来訪客・地元客のリピーターの集客に注力している状況である。

ゴルフ場事業は、売上高合計は減少し続けている。その中で、食堂・売店な売上高に関しては増加傾向であるが、利用料金収入、キャディフィといったゴルフ運営主体の収入においては、やや、減少幅が少なくなったものの、依然として減少傾向にあり、経営環境は悪化している。

リゾートクラブについては、施設の宿泊者数は全体としてはほぼ横ばいに推移している。会員権の新規販売は、一部活発な企業の積極的な販売が目立つ反面、逆に会員数の減少しているところもあり、総じて言えば、好調企業と不振企業の二極分化の傾向がある。

2. 設備投資動向（グラフ1参照）

(1) これまでの設備投資の推移

遊園地の投資額は、17年度実績は386.2億円（2社合計）、18年度実績見込みが487.9億円（3社合計）と規模が拡大している。投資目的別では、更新、維持・補修と生産能力増強への投資が99.9%を占めている。

ゴルフ場は、17年度実績では、6.9億円（7社合計）、18年度実績見込みでは5.6億円（9社合計）と規模が拡大している。投資目的別では37.8%が更新、維持・補修となっている。

リゾートクラブは、17年度実績では20.6億円（3社合計）、18年度実績見込みでは35.1億円（5社合計）となって、規模が拡大している。好調な企業にあっては、遊休宿泊施設を他から買収し、リニューアルして稼働させるケースもあり、投資目的別では、生産能力増強と更新、維持・補修への投資が91.3%を占めている。

(2) 平成19年度の設備投資計画

遊園地は、19年度計画では、554.1億円（3社合計）で、更新、維持・補修や生産能力増強を中心とした投資見込みとなっている。

ゴルフ場は、6.3億円（9社合計）、リゾートクラブは、49.8億円（5社合計）で更新、維持・補修を中心とした投資見込みとなっている。

3. 長期資金調達・運用動向（長期資金運用動向、長期資金調達動向）

遊園地は、内部資金への依存度は高くなっている。また、一定時期に一定規模の投資を必要とするため、内部資金では補えない部分を、借入金で賄うので借入金への依存度も高くなっているが、資金需要は低い状態となっている。

ゴルフ場は、会員制による運営を行う企業が多くを占めるため、年会費や預託金などによる内部資金に依存する傾向にあり、中長期的にみても同様と見込まれる。

リゾートクラブは、会員からの預託金などの拠出金や、施設不動産の所有権分譲形式による資金回転による調達が中心であるが、好調な企業では、不動産ファンドなど外部からの資金調達を併行させる事例も増えてきており、一部ではあるが設備投資も増加傾向で推移している。

（グラフ1：設備投資の前年度比の推移）

